

タイトル	2026 年度 学校推薦型選抜・帰国生選抜 共同教育学部（教育人間科学系 特別支援教育専攻） 小論文・面接
評価のポイント	【小論文】 （評価のポイント）学校教育および特別支援教育に関する関心度に加え、総合的な思考力、問題解決能力等を評価する。評価に当たっては、次のような点を特に重視する。 ・ 問題文における著者の意図を読解できているか。 ・ 設問に沿った解答となっているか。 ・ 自分の考えを理論的に述べられているか。 ・ 特別支援教育の理念や障害者支援の原則（権利擁護、尊厳尊重等）を踏まえた解答となっているか。
解答例	問 1 各学年いずれも小問 1 から 3 の正答率に比べて、小問 4 から 6 の正答率が低い傾向にある。特に小問 4 と小問 6 の正答率が各学年の高位層、中位層、低位層のいずれにおいても低くなっている。また、各学年の層で比べてみると、いずれの小問も高位層から低位層にかけて正答率が概ね低下しているが、特に低位層において顕著な低下がみられる。くわえて 4 年生や 5 年生の低位層の正答率は下学年の中位層又は高位層の得点率に及んでいない。 問 2 3 つの小問はいずれも 1 を最大値とするスケールを 10 等分してあり、問題の分数がいくつの目盛に相当するかを問うている。正答した（5）は 10 等分の内の 9 番目の目盛であることから理解がし易かったと考えられる。一方、（4）や（6）については、分母の数と等分された数である 10 とが相違しているため、思考が混乱したと考えられる。以上のことから、この子どもは分母と分子の意味が十分に理解できていないと推察される。 問 3 図 4-5 の解答をした子どもは、その誤答から分母と分子の意味が理解できていないことが推察される。具体的には、（4）であれば分母が 2 であるのでスケールを 2 等分し、分子が 1 なので 0 から数えて 1 番目の目盛ということになる。同様に（6）であれば、分母は 5 であるのでスケールを 5 等分し、分子が 2 なので 0 から数えて 2 番目の目盛ということになる。ここで問題となるのは問題で提示されているスケールの分割が 10 等分になっていることである。あらかじめ提示されている等分数と小問の分母に示される数が異なるため、思考の混乱を招いていることが考えられる。たとえば、（6）の 5 等分にした場合、一つ分の目盛が 10 等分の目盛のどこに相当するのかを理解しなければ、問題に答えることはできない。5 等

評価の ポイント	分の目盛を 10 等分のスケール上に記すことができれば、$\frac{2}{5}$ すなわち 5 等分の 2 番目の目盛が 10 等分の 4 番目の目盛に相当することがわかるのである。 そこで、分数の分母と分子の意味が理解できていない場合には、分母がスケールの等分数であること、分子が 0 から数えた数であることを教え、目盛を書いていないスケール上に様々な分数を表す学習を繰り返すという指導法が考えられる。一方、等分数の相違に混乱がみられる場合には、同じ長さのスケールを用意しそこに問題の等分数の目盛を書いて、10 等分のスケールと照合させることで等分の対応を理解させる指導法が考えられる。 【面接】 （評価のポイント） 将来、教員になるにあたっての資質を現段階において備えているかを判断するために 面接試験を実施している。面接者の質問に適切に対応できているか、特別支援教育専攻に対する志望動機が明確か、基本的なコミュニケーションスキルや協調性を備えているか等から評価している。
---------------------	--